静岡県最低生計費試算調査結果―若年単身世帯(25歳男性)の結果

主任研究員 中澤秀一(県短大講師)

はじめに―調査の目的

2009年11月、静岡県労働研究所(静岡労研)、静岡県労働組合評議会(県評)、静岡 自治体労働組合総連合(静岡自治労連)の三者合同で、最低生計費試算調査を実施する ことが決定され、翌12月には正式に三者による合同作業チームが発足した。

調査の目的は、静岡県における労働者が憲法 25 条における健康で文化的な生活を営むに 当たって、生計費が最低どの程度かかるのかを試算し、全国一律の最低賃金要求運動など さまざまな労働組合運動に生かすことであるが、より具体的なものとして

- ①労働組合運動における労働者の賃金要求について生計費原則に立ち、その根拠となる最低生計費を運動として試算する。
- ②静岡県の最低賃金を大幅に引き上げ、ワーキングプアを解消する要求の根拠としていく。
- ③公務員労働者の人事院勧告、人事委員会勧告(静岡県、静岡市、浜松市)における標準 生計費がいかに低いかを実証し、賃金要求闘争の根拠としていく。
- ④多くの労働者が参加することによって、理論的な数値だけではなく、実際の労働者の生活実態を反映したものとして、自らの要求に確信を持つ根拠としていく。
- ⑤静岡県における正規、非正規労働者に共通する運動として、連帯感を深める。 以上の5点が掲げられた。

1.調査の概要

若年の単身世帯を中心としながら他の年齢、階層、単身以外の世帯構成についても対象とし、いくつかの調査を組み合わせて、それらを集計することで最低生計費の試算を行う。 実施された調査は、

- ①生活実態調査:大まかな生活実態を把握し、価格調査の際に基礎的資料とする
- ②持ち物財調査:対象者が生活に必要なものとして何を持っているかすべて記入してもらい、最低生計費を試算する基礎資料となる。
- ③価格(市場)調査:実際の対象市においての価格調査を実施する。

以上の3つの調査である。これらに主に統計資料を利用した食料費、娯楽費、住居費、教育費などの試算結果を組み合わせて、静岡県における最低生計費の試算を行った。

- (1) 生活実熊調査の概要
 - 1)調査時期 2010年2月~3月
 - 2)調查対象

県評に加盟する各単産の労働者、年金生活者(年金者組合)など

- 3) 調査方法 2000ケースの回収を目標に1万の調査票を配布、アンケート調査
- 4) 回収数

4716ケース ※今回集計したものは2005ケース

5)調査主体

県評、静岡自治労連、静岡労研

6)調查項目

I 基本的属性(性別、年齢、世帯構成、居住形態、家賃など)

Ⅱ仕事の内容(雇用形態、勤続年数、企業規模、仕事の内容、賃金額)

Ⅲ独立の予定、親からの経済的援助

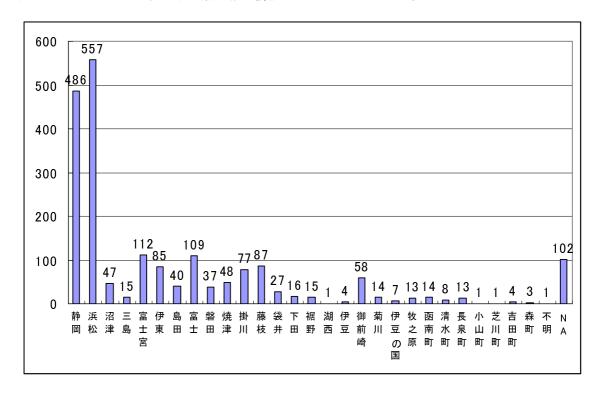
IV悩みや要求、相談相手

V子どもや孫の状況

VI日常生活について(朝食、朝食、夕食の取り方、その費用、余暇生活、旅行、交際費、自動車・バイクの必要性、主な買い物場所、負担に思っている消費支出、 充実したい消費支出など)

WI地域での生活(交通手段、近所づきあいの程度)

図1:アンケート回収の市町別内訳(集計した2005ケース)



(2) 持ち物財調査の概要

1)調査時期

2010年2月~3月

2)調査対象

県評に加盟する各単産の労働者、年金生活者(年金者組合)など

3)調查方法

2000ケースを目標に1万の調査票を配布、アンケート調査

4)回収数

4716ケース ※今回集計したものは2005ケース

5)調査主体

県評、静岡自治労連、静岡労研

6)調查項目(計430項目)

I 基本的属性(性別、年齢、世帯構成)

Ⅱ家具・家事用品(設備機器 5 項目、家事用耐久財 20 項目、冷暖房用機器 11 項目、 居間・寝室用家具 9 項目、応接・書斎用家具 10 項目、食堂用家具 4 項目、室内装備 品 11 項目、寝具類 10 項目、家事雑貨 129 項目、家事用消耗品 13 項目、家事サービ ス 3 項目)計 225 項目

Ⅲ被服および履物 115 項目

Ⅳ身の回り用品 20 項目

V 教養娯楽(教養娯楽用耐久財 15 項目、書籍・他の印刷物 5 項目、教養娯楽用品 13 項目)計 33 項目

VI交通・通信(交通手段6項目、通信機器4項目)計10項目

Ⅷ理美容用品 20 項目

Ⅷ保健医療用品·器具3項目

(3) 価格調査の概要

1)調査時期

2010年5月

2)調查対象

静岡市、浜松市の大型量販店、専門店、ホームセンターなど

3)調查方法

大型量販店などを訪問し、価格調査の許可を受け調査を実施各項目について、最低価格、最頻度・標準価格、最高価格を調査

2. 生活実態調査の結果の概要—全2005ケースの単純集計(実数 %)

(1) 雇用形態

表 1

正規職員	1280	63.8
臨時職員	34	1.7
非常勤職員	20	1.0
派遣社員	1	0.0
嘱託社員	6	0.3
契約社員	7	0.3
アルバイト	8	0.4
常勤パート	127	6.3
短時間パート	467	23.3
個人請負	4	0.2
無職	28	1.4

その他	23	1.1
-----	----	-----

(2) 勤続年数

表 2

2年未満	315	15.7
2~5年未満	442	22.0
5~10年未満	385	19.2
10~15年未満	284	14.2
15~20年未満	225	11.2
20~30年未満	177	8.8
30年以上	137	6.8
非該当	38	1.9
NA	2	0.1

(3) 事業所規模

表3

30 人未満	198	9.9
30~100 人	622	31.0
100~300 人	188	9.4
300~500 人	84	4.2
500~1000 人	182	9.1
1000 人以上	84	4.2
公務	526	26.2
非該当	47	2.3
NA	74	3.7

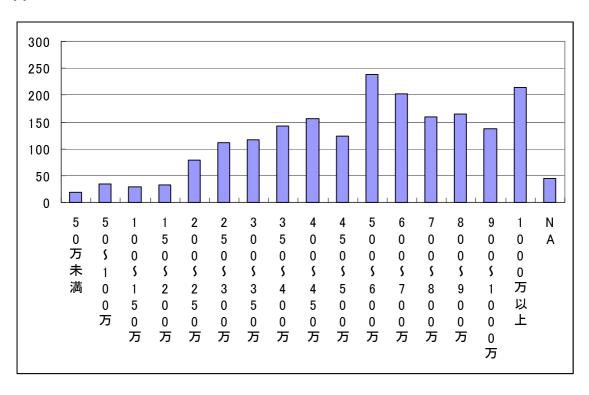
(4) 業種

表4

建設	8	0.4	医療	319	15.9
機械製造	56	2.8	福祉	46	2.3
材製造	81	4.0	教育	20	1.0
消費関連製造	96	4.8	サービス	208	10.4
運輸	45	2.2	国家公務員	57	2.8
通信	3	0.1	地方公務員	665	33.2
電気ガス水道	1	0.0	その他	44	2.2
卸小売飲食	278	13.9	非該当	35	1.7
金融保険不動産	22	1.1	NA	21	1.0

(5) 世帯年収の分布

図 2



(6) 年齢と世帯構成のクロス集計(実数のみ)

表 5

	独居	あなたと 親	あなたと親と兄弟	あなたと親と兄弟夫婦	あなたと友達や兄弟	あなた夫婦のみ	あなた夫婦と未婚子	あなたと未婚子	あなた夫婦と未婚子と 親	あなた夫婦と親	あなた夫婦 と子ども夫 婦	あなた夫婦 と子ども夫 婦と孫	その 他	NA	総計
20 歳未満	3	1	5			4	1						3		17
20 歳代	206	75	98	2	6	59	27	1	3	3			38	1	519
30 歳代	88	35	22	1	1	55	182	8	32	14			13		451
40 歳代	28	25	6	3		21	197	14	95	15	2		29		435
50 歳代	16	12	4			82	199	18	78	23	3	13	29	1	478
60 歳代	11		1			30	28	2	3	4		4	1	1	85
70 歳代	0					13	2	2				1	2		20
総計	352	148	136	6	7	264	636	45	211	59	5	18	115	3	2005

(7) 住宅

表6

一戸建て持家	1273	63.5
マンション持家	73	3.6
一戸建て借家	71	3.5
マンションアパート借家	495	24.7
公営住宅	21	1.0
社宅·官舎	47	2.3
公団賃貸	7	0.3
その他	17	0.8
NA	1	0.0

(8) 現在の暮らし向き

表 7

苦しい	428	21.3
やや苦しい	705	35.2
普通	762	38.0
ややゆとりがある	80	4.0
ゆとりがある	22	1.1
NA	8	0.4

3. 算定の対象となるモデルと地域

(1) 対象モデル

最低賃金の引上げ要求運動につなげるため、20 歳代の単身世帯を第一に分析することと した。具体的には、25 歳男性を想定している。

(2) 居住地域

居住地域としては、静岡市を想定した。それは、アンケート率の回収率が最も高かった のが静岡市であったことが大きな理由である。なお、浜松市も全体では最も回収数が多か ったので、価格調査を実施している。

また、公共交通機関が使いにくい郊外に居住して、市街地もしくは近隣の市にある会社 に勤務しているものと想定した。

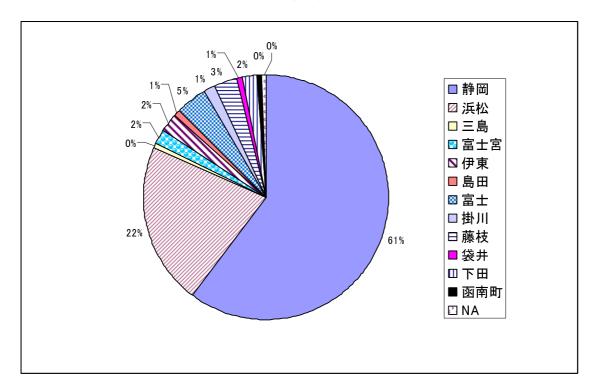
(参考)静岡市の人口、世帯数

総数:726,399人

男:354,073人 女:372,326人

世帯: 297, 244世帯

図3:アンケート回収の市町別内訳(20代単身世帯201ケース)



4. 算定の方法

(1) 留意点

今回の静岡県最低生計費試算調査は、佛教大学の金澤誠一氏の監修のもとで行われた「首都圏最低生計費試算調査」(2008年4月~6月実施、2039ケース集約。以下「首都圏」)およびに「東北地方最低生計費試算調査」(2009年5月~6月実施、1615ケース集約。以下「東北」)の調査方法を、若干の修正を加えながらも基本的には踏襲している。調査方法を大幅に変えてしまうと、従前の調査との比較が困難となり、労働運動がかねてより求めている全国一律最低賃金の実現に結びつかなくなるからである。従前の調査同様に、以下の点に留意して算定を行った。

① 家具・家事用品、被服及び履物、教育娯楽耐久財、書籍・他の印刷物、教養娯楽用品、理美容用品、身の回り用品などは、持ち物財調査にもとづいて、**原則 7 割以上の保有率**の物を「人前に出て恥をかかないでいられる」ために最低限必要な必需品と考え、それぞれの費目ごとに積み上げて算定。また、耐用年数については、国税庁**「減価償却資産の耐用年数等に関する政令」**を参考にした。

購入先について、生活実態調査にもとづき想定した。生活実態調査では、購入先についても聞いている。それによれば、最**も多いのが、「量販店・大型スーパー」や「大型電気店」、「ホームセンター」等**であった。これらの購入先で価格調査を実施した。

価格調査の方法としては、それぞれの品目のそのお店の最低価格、最多・標準価格、最 高価格を調査した。**外出用の品目について**は、「人前に出て恥をかかないように」最低価格 は避けて、**標準価格**を用いた。**それ以外**については、**最低価格**を用いている。

なお、今回の生活実態調査によると、教養娯楽用品のうち、携帯ゲーム機の所有率が高

かった。**20** 代男性の志向を考慮して、**携帯ゲーム機およびにゲームソフトを所有**させることとした。

② 食費については、2005年の**総務庁「家計調査」の品目分類にもとづいて、最も年間収入の低い第1五分位階層の100g当たりの消費単価を4つの食品群に分けてそれぞれ計算した。**なお、静岡県における2010年5月時点での食費の物価上昇率は、2005年に比べ3.0%増となっていることを考慮し、食費合計額に物価上昇分を加えている。

次に、女子栄養大学出版部『2010 年版五訂増補食品成分表資料編』にもとづき、1 日当たりの必要なカロリーを算出した(25歳男性1日当たり2650kカロリー)。また、「4つの食品群の年齢別・性別・身体活動レベル別食品構成(1人1日当たりの重量=g)」(香川芳子:女子栄養大学教授案)にもとづいて必要な栄養を満たすように、食費を試算。香川氏の試案にもとづきエネルギー必要量の1割は嗜好品でまかなうようにした。なお、食べ残しなどの廃棄率を5%とした。

朝食・昼食・夕食については、生活実態調査の結果、それぞれどこでどのような食事の 仕方をしているのかにもとづいて算定している。

また、仕事の帰りや休日にお酒や会食についても生活実態調査の結果から、その回数、 費用にもとづいて算定した。

③ 住居費については、公営住宅は少なく、現実に入ることが困難なため、民間借家を想定した。居住面積については、国土交通省「住生活基本計画」(平成18年度から平成27年度)による「最低居住面積水準」にもとづき、単身世帯25㎡とした。

家賃については、住宅情報誌にもとづき、静岡市での家賃を調査し、その最低価格を採用している。また、更新期間及び更新料についても、生活実態調査にもとづいて算定した。

- ④ 教育費については、単身世帯のため、今回は算定に含めていない。
- ⑤ 教養娯楽サービスについては、生活実態調査の結果から、日帰り旅行の回数、費用、1 泊以上の旅行の回数、費用にもとづいて算定した。その他、余暇・休日の過ごし方を調査 し、その結果にもとづいて算定した。
- ⑥ 理髪料としては、静岡市内の理容店組合に所属している理容店の価格調査をしたところ、1回料金は3,900円であった。成人男性の場合、2か月に1回の利用として算定した。
- ⑦ 交通・通信費については、生活実態調査の結果をみると、交通用具の所有率は以下の通りであった。軽自動車(660cc 以下)=24.3%、小型自動車(661~2000cc)=18.4%、普通自動車(2000cc 以上)=23.9%、ミニバイク(125cc 以下)=11.9%、バイク(125cc 以上)=5.5%、自転車=55.2%。20 代単身者の 4 分の 3 が自家用車もしくはバイクを所有し、また 56.2%の人が「必需品」であると、30.2%の人が「あれば便利」と答えていた。この調査結果から、静岡県内では郊外で住む場合、移動手段として自家用車もしくはバイクが必需品であると判断し、所有する品目に加えた。また、自転車については、若年単身

世帯では約55%と低かったため、保有がないものとした。

通信費については、総務省**「平成 16 年全国消費実態調査」**を用いて、2010 年 5 月時点での物価上昇率(静岡県)を考慮してある。

- ⑧ 水道・光熱費、医療費については、総務省**「平成 16 年全国消費実態調査」**を用いて、 2010年5月時点での物価上昇率(静岡県)を考慮してある。
- ⑨ 交際費・その他については、生活実態調査の結果から、第 1 に、親戚などの結婚式・お葬式などの参加の回数、費用を推計した(年間 2 回、1 回の費用=20,000 円)。第 2 に、お中元やお歳暮についても、生活実態調査の結果から推計している(今回は算定に含めなかった)。第 3 に、見舞金やお年玉・その他の贈り物についても、生活実態調査の結果から、その回数、費用を推計した(年間 4 回、1 回の費用=2,000 円)。第 4 に、自治会費などの会費、赤い羽根募金、祭りの寄付を想定した(月に 500 円)。第 5 に、住宅関係費として、共益費は生活実態調査並びに静岡市周辺の賃貸住宅情報誌による調査結果から算定した(月に 3,000 円)。第 6 に、新年会や忘年会、同窓会への参加を想定し(年間 2 回)、5,000円の参加費として算定した。第 7 に、現役の労働者・サラリーマンの場合には、労働組合費として月 2,300 円を想定した(所得の 1%を目安)。第 8 に、その他会費として、年間 3,000円を想定した。
- ⑩ こづかいについては、これまでの算定では計上しなかった教養娯楽費としての切り花代などやオーディオ関係など、また、飲食費としての喫茶店でのコーヒー代などを、こづかいとして一括してここに計上した。これは、持ち物財調査では保有率が分散していて 7割には満たないが、個々人の趣味など、価値の多様性を考慮したものである。その額は、1人1日200円として月6,000円とした。
- ① その他、予備費として、消費支出の 1 割を計上している。これは、これまで計上してきた最低生計費は、いわば平均的な人間を想定したものである。しかし、実際には、個々人の多様性が存在し、例えば、身長や体重の違いにより熱エネルギー量は異なる。また、めがねを必要としたり補聴器を必要としたり、その人の健康状態によっても異なる。医療費や交通通信費、冠婚葬祭費などもそのときどきによって異なる可能性がある。そういった点を考慮して予備費を設けている。

5. 最低生計費の試算

(1)食費の算定

静岡市に住む 20 代単身者の食生活は、どのようなものなのであろうか。生活実態調査からは、以下のような結果を得られた。まず朝食については、調査結果によれば、「家でしっかり食べる」が最も多く 46.8%(首都圏=40.1%、東北=43.5%)、次いで「家で牛乳やコーヒーですます」の 16.9%(首都圏=18.0%、東北=8.7%)、「朝食はとらない」の 15.9%(首都圏=16.7%、東北 30.4%)、「通勤途上や職場でパンやそばなど」の 8.5%(首都圏=10.4%、東北=13.0%)と続いていた。今回の結果は、従前の調査結果とそれほど大きな違

いはみられなかった。首都圏や東北と同様に、朝食は家でしっかりとるものと想定した。 昼食については、「職場の給食」の 28.4%(首都圏=21.6%、東北=13.0%)が最も多く、 次いで「弁当やパンを買う」の 25.9%(首都圏=34.2%、東北=43.5%)、「家から弁当」 の 22.4%(首都圏=13.5%)、「職場の食堂」の 12.9%(首都圏=11.3%、東北=13.0%) であった。首都圏と比べると、「家から弁当」の割合が高いが、これは今回のサンプルに女 性が多いことが影響していると思われる。ちなみに男女別にみると、男性は「弁当やパンを 買う」が 38.5%で最も多く、女性は「家から弁当」が 30.5%で最も多かった。ここでは、男 性 25 歳単身世帯をモデルとして想定しているので、昼食は弁当等を購入するものとした。 その費用については、調査結果の平均は 741 円であったが、最も多い回答が「500 円台」(回 答者全体の 32.0%)であった(ちなみに「300 円台」が 26.9%、「400 円台」が 13.4%と続 く)。以上の結果から、1 食の弁当代を 500 円とした。

夕食については、「家でひとりで食べる」が 88.6%にのぼり(首都圏=75.2%、東北=73.9%)、「食堂の利用」は 5.5%であった(首都圏=17.1%、東北=26.1%)。男性の場合でも「食堂の利用」は 10.3%とやや多くなるものの、家で食べる派が圧倒的であった (80.8%)。この結果から、夕食は家で食べるものとした。

仕事の後や休日にお酒や会食をする回数は、実態調査では、最も多いのが「月 $1\sim2$ 回」で 42.8%、次いで「月 $3\sim4$ 回」の 26.9%、「ほとんどない」の 14.9%と続いている。このことから友人などとの会食を月 2回とした。その費用の平均額は 4,202 円であったが、最も多い回答が「5,000 円台」(回答者全体の 31.7%)であった(ちなみに「3,000 円台」が 21.9%、「4,000 円台」が 16.5%と続く)。その最低費用として 1回の費用を 3,000 円とした。

25 歳男性 1 日当たり 2,650 k カロリー (30 日=79,500k カロリー)

表8-1:4つの食品群別にみた、100g当たりの消費単価

第1群 第2群

乳・乳製品 卵 魚介・肉 豆・豆製品

26.60 円 22.11 円 129.41 円 54.08 円

第 3 群

野菜・海藻 いも類 果物 穀類 砂糖 油脂 42.57 円 24.33 円 37.13 円 45.48 円 17.45 円 34.28 円

嗜好品(菓子、飲料、酒類)

57.13円 (100 k カロリー当たり 68.23円)

(出所):『首都圈最低生計費試算調查報告集』、41頁。

表8-2:25歳、男性、身体活動レベルⅡ、4つの栄養群別、必要な食品構成と金額

第 1	群	第 2	群	
乳製		魚介·肉		
必要量	300g	必要量	140g	
金額	79.8 円	金額	181.2 円	
卵	1	豆-豆!	<mark>쳊</mark> 品	
必要量	50g	必要量	80g	
金額	11.1 円	金額	43.3 円	
第 3	群	第 4 群		
野菜・	海藻	穀類		
必要量	350g	必要量	400g	
金額	149 円	金額	181.9 円	
いも	類	砂糖		
必要量	100g	必要量	10g	
金額	24.3 円	金額 1.7円		
果物		油脂		
必要量	200g	必要量	30g	
金額	74.3 円	金額	10.3 円	

(出所):『首都圈最低生計費試算調查報告集』、42頁。

1日エネルギー必要量の90%とその他の栄養必要量を満たし、それに嗜好品を加えた金額は、

2,385k カロリー756.9 円嗜好品・265k カロリー180.8 円合計937.7 円

従って、1 カ月、すべて家で食事したと仮定すると、937.7 円 $\times 30$ 日=28,131 円となる。また、昼食の弁当と友人などとの会食は、次の通り算定した。

弁当1食730k カロリー500 円1カ月20食14,600k カロリー10,000 円会食2回枝豆、鶏から揚げ、おでん、刺身、ビール(中ジョッキ)、緑茶割り100k カロリー+400k カロリー+350k カロリー+220k カロリー+160k カロリー+77k カロリー=1,307k カロリー月2回2,614k カロリー6,000 円

家での食事 58,311k カロリー 20,633 円×1.03=21,252 円

昼食14,600k カロリー10,000 円会食2,614k カロリー6,000 円廃棄分(5%)3,975k カロリー1,443 円合計79,500k カロリー38,695 円

(2) 住居費の算定

家賃月42,000 円更新料0 円合計42,000 円

(3) 水道・光熱費の算定

水道・光熱費の算定は、総務省「平成 16 年全国消費実態調査」の「男女別、年齢階級別 支出」を用いた。

合計 6,993円

(4) 家具・家事用品の算定

家具・家事用品については、持ち物財調査によって算定したが、単身世帯については、若年の場合には、まだ所帯をもたず、1 DK といった狭いアパートであるため、持ち物は実際にも少ないのが現状である。そのため、若年単身の場合には、それだけで集計して、その結果を用いた。

a) 家庭用耐久消費財=月額 1,471 円

品目	価格	耐用年数	消費量	月価格
家事用耐久財				
電子・ガスレンジ	6,980	6	1	97
自動炊飯器	6,980	6	1	97
電気冷蔵庫	23,800	6	1	331

電気掃除機	2,770	6	1	38
電気洗濯機	17,800	6	1	247
小 計				810

品目	価格	耐用年数	消費量	月価格
冷暖房用機器				
ルームエアコン	29,800	6	4	553
(取り付け工事代)	(10,000)	0		(計)
電気こたつ	4,000	6	1	56
扇風機	1,680	6	1	23
小 計				632

品目	価格	耐用年数	消費量	月価格
居間·寝室用家具				
収納ボックス	798	3	1	22
小 計				22

品目	価格	耐用年数	消費量	月価格
応接·書斎用家具				
本箱棚	1,280	15	1	7
小 計				7

b) 室内装備具=月額 50円

品目	価格	耐用年数	消費量	月価格
室内装備品				
目覚まし時計	500	8	1	5
蛍光灯のかさ	1,980	8	1	21
カーテン	1,480	5	1	24
小 計				50

c) 寝具類=月額 342 円

品目	価格	耐用年数	消費量	月価格
寝具類				
敷き布団	2,980	5	1	50
掛け布団	2,980	5	1	50
タオルケット	780	3	1	22
毛布	3,000	3	1	83
シーツ	798	2	2	67

まくら	398	3	1	11
布団カバー	498	2	2	42
まくらカバー	198	2	2	17
小 計				342

d) 家事雑貨=月額 365 円

品目	価格	耐用年数	消費量	月価格
家事雑貨				
飯茶碗	98	2	2	8
湯飲み茶碗	98	2	2	8
どんぶり	148	2	2	12
コーヒー・紅茶茶碗	148	2	2	12
吸い物わん	148	2	2	12
盛り皿・盛りばち	298	2	2	24
コップ	40	2	2	3
スプーン	128	5	2	4
フォーク	128	5	2	4
中なべ	777	5	1	13
フライパン	698	5	1	12
水切りかご・ざる	298	4	1	6
ボール	398	2	1	17
包丁・ナイフ	698	5	1	12
まな板	298	5	1	5
はし・菜はし	33	5	2	1
しゃもじ	100	5	1	2
ふきん	97	1	1	8
たわし・スポンジ	98	1	1	8
タッパー	148	5	5	12
干し物さお	498	5	1	8
くずかご	198	5	1	8
洗濯用かご	398	5	1	7
タオル	78	1	5	33
バスタオル	248	1	2	42
電球	115	1	1	10
蛍光灯	498	3	1	14
ドライバー	298	15	1	2
バスマット	598	1	1	50
洗面器	98	1	1	8
小 計				365

e)家庭用消耗品=月額458円

品目	価格	耐用年数	消費量	月価格
家事用消耗品				
ポリ袋(45L*10 枚)	128	1	48	51
ラップ(30cm×40m)	108	1	6	54
ティッシュペーパー(5 箱)	128	1	12	26
トイレットペーパー(12R)	245	1	36	61
台所洗剤	78	1	6	39
トイレ用洗剤	98	1	6	49
洗濯用洗剤	198	1	6	99
トイレ芳香剤	158	1	6	79
小 計				458

合計 2,686円

(5) 被服および履物の算定

被服および履物については、持ち物財調査にもとづいて算定した。数量については、少ないほうから数えて合計 3 割の人が保有する数を算定基準とした。なお、※のついたものについては、人前に出ても恥ずかしくないものを着用していると考えて、最多・標準価格で算出している。

a)被服·履物=月額 5,588 円

品目	価格	耐用年数	消費量	月価格
被服・履物				
背広※	29,500	4	3	1,844
礼服※	29,400	10	1	245
替えズボン	2,990	4	3	187
ジャケット※	2,990	4	2	125
半ズボン	1,290	4	1	27
パーカー	1,990	2	2	166
ワイシャツ	1,990	2	4	332
長袖シャツ	1,490	2	3	186
半そでシャツ	1,990	2	3	249
ポロシャツ	990	2	2	83
セーター・カーディガン	3,990	2	2	332
シャツ(夏)	490	2	5	102
シャツ(合・冬)	490	2	5	102
Tシャツ	500	2	10	208

ジャージ	1,990	2	1	83
トレーナー	1,990	2	2	166
パンツ・ブリーフ	290	2	10	121
サンダル	280	2	1	12
靴※	5,990	2	2	499
運動靴・スニーカー	980	2	2	82
靴下	250	2	12	125
手袋	398	4	1	8
ネクタイ※	1,990	4	5	207
マフラー※	1,500	4	1	31
バンド・ベルト	1,990	5	2	66
小 計				5,588

b) クリーニング代

この他、スーツ3着分のクリーニング代を想定した(1着=1,000円)。

1 着 1,000 円 * 3/12=月額 250 円

合計 5,838円

(6) 保健医療費の算定

保健医療費の算定は、総務省「平成 16 年全国消費実態調査」の「男女別、年齢階級別支出」を用いた。

合計 2,420円

(7) 通信・交通費の算定

通信費の算定は、総務省「平成 16 年全国消費実態調査」の「男女別、年齢階級別支出」 を用いた。

合計 9,018円

交通費の算定は、先に述べたように今回は自動車の所有を想定している。その車種としては「小型自動車」(1,000cc クラスで 5 年落ち)とした。自動車購入費は、小型車中古として価格 450,000 円、耐久年数を 4 年として計算すると、月当たり 9,375 円となる。自動車関係費については、月の走行距離を約 700 kmとした。そのことからガソリン代を 9,800円と推計した。また、車保険年額(対人賠償+対物賠償+免責金額+搭乗者障害)を 79,000円(月当たり 6,583円)、車税金年額については重量税を 25,200円(月当たり 1,050円)、自賠責を 23,170円(月当たり 965円)、自動車税を 29,500円(月当たり 2,458円)、その

他に車両整備費等で月 833 円、それぞれ計上した。駐車場代については、調査によると静岡市の場合、家賃に含まれている物件が多かったので、かからないものとした。

合計 31,064円

(8) 教育費の算定

該当せず。

(9) 教養娯楽費の算定

娯楽用耐久財及び書籍・他の印刷物については、持ち物財調査による保有率を用いて算定した。なお、書籍類や新聞等は持ち物財調査によると、保有率が低かったために所有を想定していない

a) 娯楽用耐久財=月額 2,403 円

品目	価格	耐用年 数	消費量	月価格
教養娯楽用耐久財				
カラーテレビ	57,800	5	1	963
パソコン	58,900	4	1	1227
USB	1,000	1	1	83
デジカメ	7,780	5	1	130
小 計				2403

b) 教養娯楽用品=月額 419 円

品目	価格	耐用年数	消費量	月価格
教養娯楽用品				
携帯ゲーム機	16,800	5	1	280
ゲームソフト	1,000	3	5	139
小 計				419

c) 教養娯楽サービス

さらに、教養娯楽サービスについては、生活実態調査による若年単身世帯の集計結果にもとづいて算定した。それによると、日帰り旅行については、月に1回が最も多く34.0%であった(首都圏調査では、7割弱の人が、「なし」と答えていた)。ここでは、日帰り旅行を、年6回と想定した。また、その費用としては、最も多かったのが「1万円」という回答であった(平均額は8,500円)。その費用としては最低に近い、1回4,500円とした。

また、1 泊以上の旅行については、年に「3 回」の 24.6%が最も多かった。約 6 割が 1 回から 3 回に集中していた。この結果から、年 2 回の 1 泊旅行を想定した。その費用については、最も多い回答が「3 万円」であった(平均額は 33,481 円)。この結果から、1 回の

費用として、3万円を想定した。

また、休日や余暇の過ごし方(複数回答)として、最も多いのが「自宅での休養」で 77.6%、次いで「友人や知人との交際」の 53.2%、「ショッピング」 51.2%、「日帰り旅行」の 27.3%、「スポーツ」の 18.4%、「映画鑑賞」の 10.9%、「読書」の 10.4%などと続いていた。これらのことから、上記の旅行を除いて、映画・観劇・音楽・絵画などの鑑賞やスポーツを恋人や友人などと一緒に月 2 回とし、その費用を 1 回 2000 円とした。

小計 月額 11,250 円

d) NHK受信料=月額 1,345 円

合計 15,417円

(10) 理美容費の算定

a) 理美容用品=月額 321 円

品目	価格	耐用年数	消費量	月価格
理美容用品				
ヘアードライヤー	980	6	1	14
歯ブラシ	78	1	3	20
かみそり	80	1	2	13
ヘアブラシ	198	3	1	6
シャンプー	248	1	6	124
ボディーシャンプー	248	1	6	124
歯磨き	78	1	3	20
小 計				321

b) 理美容サービス

理髪料として、成人男性の場合、1 回 3,900 円として計算した。2 か月に1 回利用とした (月当たり 1,950 円)。

合計 2,271円

(11) 身の回り用品の算定

品目	価格	耐用年数	消費量	月価格
身の回り用品				
傘	198	2	3	25
旅行用スーツケース	2,000	5	1	33
ショルダーバック	980	5	1	16
リュックサック	798	5	1	13

財布	1,000	5	1	17
腕時計	980	10	1	8
ハンカチ	263	1	5	110
帽子	500	2	2	42
小 計				264

合計 264 円

(12) 交際費・その他の算定

生活実態調査の結果をみると、第1に、「親戚などの結婚式・お葬式などに参加しているか」との問いに対し、最も多いのが「ほとんど参加」の 64.9%、次いで「最近ほとんどよばれない」の 15.8%、「他の費目を節約して参加」の 9.4%と続いていた。その回数は、最も多いのが年1回で 24.8%、次いで 2回の 23.8%、3回の 19.3%、4回の 7.9%と続いている。この結果から、年2回の結婚式やお葬式・法事(結婚式=1回、お葬式=1回)などへの参加を想定した。その費用は、1回 2万円とした。

第 2 に、お中元やお歳暮については、最も多い回答は「贈らない」の 62.4%で、次いで「経済的に無理」の 12.9%、「最近は減らしている」の 5.0%と続いていた。このことから、若年単身の場合には、お中元やお歳暮を贈る習慣がないものと判断した。

第3に、「見舞金やお年玉・その他の贈り物をあげているか」という問いに対しては、最も多いのが「機会があるごとにあげている」で 62.9%、次いで「最近あげる機会がない」の 18.3%、「あげない」の 7.4%と続いている。この結果から、お見舞い金やお年玉などを年4回として1回 2.000 円と想定した。

第4に、自治会費などの負担費として、月500円を想定した。生活実態調査では、近所づきあいがほとんどないことがわかる。ほとんど顔を合わせないか、あいさつ程度である。 実際には、自治会費も払っていない可能性が高いが、地域のお祭りや運動会などへの参加はないものとしても、自治会費を負担するのは、地域住民の義務であろうと考えた。

第 5 に、住宅関係費として、共益費は、静岡市周辺の賃貸住宅情報誌による調査では、 3,000 円が最も多かった。このことから、共益費を月 3,000 円とした。なお、駐車場代はこ こに含まれていると考えた。

第6に、同窓会、新年会、忘年会を年2回とし、1回5,000円の参加費として算定した。 第7に、労働組合費として月2,300円(賃金の1%相当)を想定した。

第8に、その他会費として、年間3,000円を想定した。

合計 10,883円

(13) こづかいの算定

合計 6,000円

6. 生活実態調査の結果の概要-20 歳代単身世帯について

(1) 基本的属性等

Q14 性別

		度数	有効ハーセント	累積パーセント
有効	男性	77	38.3	38.3
	女性	124	61.7	100.0
	合計	201	100.0	

Q1 雇用形態

		度数	有効パーセント	累積パーセント
有効	正規職員	196	97.5	97.5
	臨時職員	5	2.5	100.0
	合計	201	100.0	

Q2 勤続年数

		度数	有効パーセント	累積パーセント
有効	2年未満	52	25.9	25.9
	2~5年	101	50.2	76.1
	5~10年	44	21.9	98.0
	10~15年	4	2.0	100.0
	合計	201	100.0	

Q3 離職回数

		度数	有効パーセント	累積パーセント
有効	10	18	9.0	9.0
	2回	2	1.0	10.0
	3回	1	.5	10.4
	4回	1	.5	10.9
	なし	179	89.1	100.0
	合計	201	100.0	

Q4 事業所規模

		度数	有効パーセント	累積パーセント
有効	30人未満	21	10.4	10.4
	30~100人	11	5.5	15.9
	100~300人	10	5.0	20.9
	300~500人	15	7.5	28.4
	500~1000人	33	16.4	44.8
	1000人以上	13	6.5	51.2

公務	89	44.3	95.5
非該当	2	1.0	96.5
NA	7	3.5	100.0
合計	201	100.0	

Q5 企業規模

		度数	有効パーセント	累積パーセント
有効	30人未満	7	3.5	3.5
	30~100人	5	2.5	6.0
	100~300人	15	7.5	13.4
	300~500人	16	8.0	21.4
	500~1000人	39	19.4	40.8
	1000人以上	18	9.0	49.8
	公務	94	46.8	96.5
	非該当	3	1.5	98.0
	NA	4	2.0	100.0
_	合計	201	100.0	

Q6 業種

		度数	有効パーセント	累積パーセント
有効	機械製造	5	2.5	2.5
	材製造	6	3.0	5.5
	運輸	1	.5	6.0
	通信	1	.5	6.5
	医療	67	33.3	39.8
	福祉	3	1.5	41.3
	教育	3	1.5	42.8
	サービス	1	.5	43.3
	国家公務員	8	4.0	47.3
	地方公務員	104	51.7	99.0
	その他	2	1.0	100.0
	合計	201	100.0	

Q7 仕事の内容

		度数	有効パーセント	累積パーセント
有効	現業 技術職	11	5.5	5.5
	事務職	59	29.4	34.8

営業販売	1	.5	35.3
研究開発	30	14.9	50.2
資格職	96	47.8	98.0
農林漁業	1	.5	98.5
その他	1	.5	99.0
非該当	1	.5	99.5
NA	1	.5	100.0
合計	201	100.0	

Q8 1ヶ月の賃金

		度数	有効パーセント	累積パーセント
有効	10万未満	2	1.0	1.0
	10~15万	5	2.5	3.5
	15~20万	53	26.4	29.9
	20~25万	74	36.8	66.7
	25~30万	53	26.4	93.0
	30~35万	7	3.5	96.5
	35~40万	6	3.0	99.5
	NA	1	.5	100.0
	合計	201	100.0	

Q10 世帯の年収

		度数	有効パーセント	累積パーセント
有効	50万未満	3	1.5	1.5
	150~200万	10	5.0	6.5
	200~250万	23	11.4	17.9
	250~300万	39	19.4	37.3
	300~350万	37	18.4	55.7
	350~400万	38	18.9	74.6
	400~450万	27	13.4	88.1
	450~500万	9	4.5	92.5
	500~600万	8	4.0	96.5
	600~700万	2	1.0	97.5
	800~900万	1	.5	98.0
	1000万以上	1	.5	98.5
	NA	3	1.5	100.0
	合計	201	100.0	

Q18 住宅

		度数	有効パーセント	累積パーセント
有効	一戸建て持家	2	1.0	1.0
	一戸建て借家	3	1.5	2.5
	マンションアパ	181	000	92.5
	一卜借家	181	90.0	92.5
	社宅·官舎	10	5.0	97.5
	公団賃貸	1	.5	98.0
	その他	4	2.0	100.0
	合計	201	100.0	

Q19 家賃(平均額)

家 賃=5万5004円

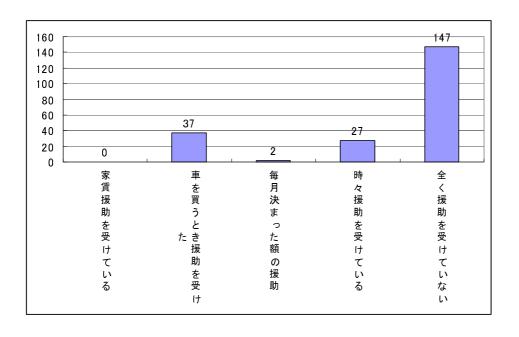
駐車場代=8,007円

共益費=1,873円

更新料=2万4584円

Q21 独立の予定

		度数	有効パーセント	累積パーセント
有効	独立している	186	92.5	92.5
	近々独立予定	4	2.0	94.5
	低賃金で無理	6	3.0	97.5
	家庭の事情で	1	F	98.0
	無理	l	.5	98.0
	その他	3	1.5	99.5
	NA	1	.5	100.0
_	合計	201	100.0	



(2) 日常生活について

1) 食生活

Q26 朝食はどうしているか

		度数	有効パーセント	累積パーセント
有効	家でしっかり	94	46.8	46.8
	家で牛乳等	34	16.9	63.7
	通勤中や職場	8	4.0	67.7
	で牛乳等	0	4.0	07.7
	通勤中や職場	17	0.5	76.1
	でパンやそば	17	8.5	76.1
	とらない	32	15.9	92.0
	その他	10	5.0	97.0
	NA	6	3.0	100.0
	合計	201	100.0	

Q27 昼食はどうしているか

		度数	有効パーセント	累積パーセント
有効	家から弁当	45	22.4	22.4
	弁当等を買い	52	25.9	48.3
	職場で食べる	J2	20.9	40.3
	職場の給食	57	28.4	76.6
	職場の食堂	26	12.9	89.6
	外の食堂や出	18	0.0	00.5
	前等	18	9.0	98.5

その他	2	1.0	99.5
NA	1	.5	100.0
合計	201	100.0	

※外食時の平均741円

Q28 夕食はどうしているか

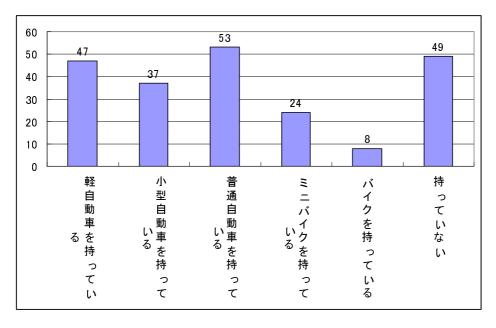
		度数	有効ハーセント	累積パーセント
有効	家で家族と一緒に	1	.5	.5
	家でひとりで	178	88.6	89.1
	食堂で食べる	11	5.5	94.5
	その他	10	5.0	99.5
	NA	1	.5	100.0
	合計	201	100.0	

Q29 お酒·お茶·会食の頻度

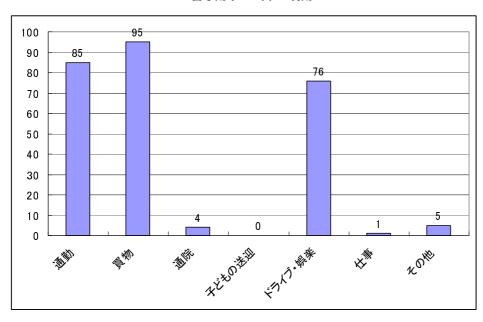
		度数	有効ハーセント	累積パーセント
有効	ほとんどない	30	14.9	14.9
	月に1~2回	86	42.8	57.7
	月に3~4回	54	26.9	84.6
	週に1~2回	29	14.4	99.0
	ほとんど毎日	1	.5	99.5
	NA	1	.5	100.0
_	合計	201	100.0	

※1回の平均4,201円

Q33 自家用車・バイクの所有状況



Q34 自家用車・バイクの利用



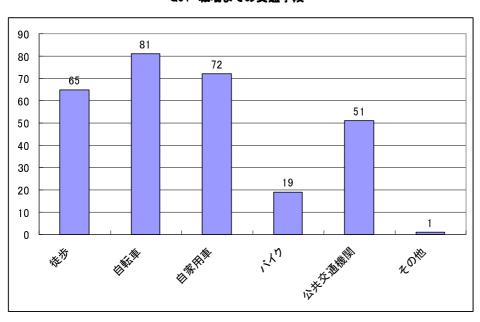
Q35 自家用車の必要性について

		度数	有効パーセント	累積パーセント
有効	必需品	113	56.2	56.2
	あれば便利	62	30.8	87.1
	なければない	0.0	11.4	00.5
	でよい	23	11.4	98.5
	なくてもよい	1	.5	99.0
	NA	2	1.0	100.0
	合計	201	100.0	

Q50 いま住んでいる地域

		度数	有効ハーセント	累積パーセント
有効	都市中心市街	63	31.3	31.3
	都市郊外	127	63.2	94.5
	農村	8	4.0	98.5
	その他	2	1.0	99.5
	NA	1	.5	100.0
	合計	201	100.0	

Q51 職場までの交通手段



3) 買い物するところ

Q37 下着を購入するお店

		度数	有効パーセント	累積パーセント
有効	近くの商店街	3	1.5	1.5
	コンビニ	1	.5	2.0
	ディスカウント	18	9.0	10.9
	大型スーパ	69	34.3	45.3
	一·量販店	09	34.3	40.3
	百貨店	27	13.4	58.7
	専門店	60	29.9	88.6
	通販	16	8.0	96.5
	百円ショップ	1	.5	97.0
	その他	4	2.0	99.0
	NA	2	1.0	100.0
-	合計	201	100.0	

Q38 洋服を購入するお店

		度数	有効ハーセント	累積パーセント
有効	近くの商店街	6	3.0	3.0
	コンビニ	2	1.0	4.0
	ディスカウント	27	13.4	17.4
	大型スーパ	67	33.3	50.7
	一·量販店	07	33.3	50.7
	百貨店	85	42.3	93.0
	専門店	8	4.0	97.0
	通販	4	2.0	99.0
	NA	2	1.0	100.0
	合計	201	100.0	

Q39 電化製品を購入するお店

		度数	有効ハーセント	累積パーセント
有効	近くの商店街	2	1.0	1.0
	量販店	29	14.4	15.4
	ディスカウント	1	.5	15.9
	百貨店	1	.5	16.4
	大型 電気 店	158	78.6	95.0
	通販	4	2.0	97.0
	その他	3	1.5	98.5
	NA	3	1.5	100.0
	合計	201	100.0	

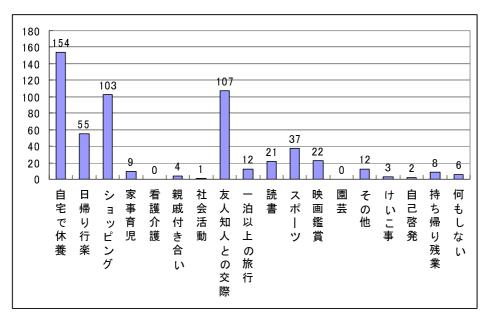
Q40 家庭雑貨を購入するお店

		度数	有効パーセント	累積パーセント
有効	近くの商店街	9	4.5	4.5
	大型スーパ	88	43.8	48.3
	一·量販店	00	73.0	40.3
	コンビニ	3	1.5	49.8
	百円ショップ	24	11.9	61.7
	百貨店	19	9.5	71.1
	ホームセンタ	48	23.9	95.0
	-	70	20.3	30.0
	通販	3	1.5	96.5
	その他	5	2.5	99.0
	NA	2	1.0	100.0

-			
合計	201	100.0	
	1		

4) 余暇

Q30 余暇の過ごし方



Q31 日帰り行楽の頻度(月)

月に1回が最も多く(34.0%)、使う費用は平均8,500円

Q32 一泊以上の旅行の頻度(年)

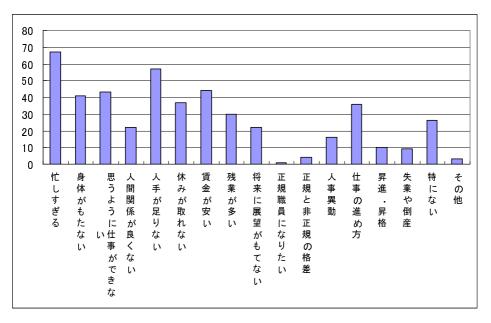
1年間に一泊以上の旅行をする頻度は、3回が最も多く(24.6%)、1回の旅行で使う費用は平均3万3,481円

5) 暮らし向き・生活上の悩みなど

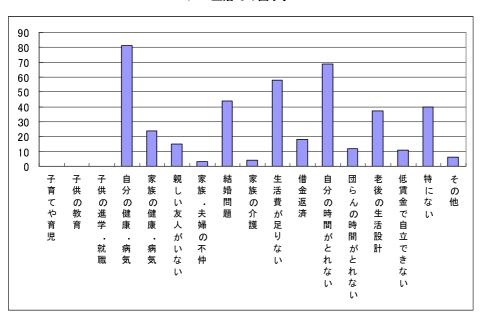
Q49 現在の暮らし向きについて

		度数	有効パーセント	累積パーセント
有効	苦しい	23	11.4	11.4
	やや苦しい	72	35.8	47.3
	普通	93	46.3	93.5
	ややゆとりが	9	4.5	98.0
	ある	9	4.5	98.0
	ゆとりがある	2	1.0	99.0
	NA	2	1.0	100.0
_	合計	201	100.0	

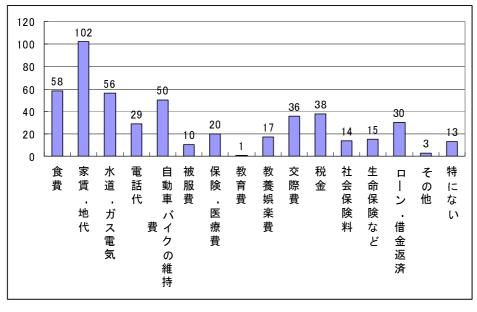
Q11 仕事に対する悩みや不満



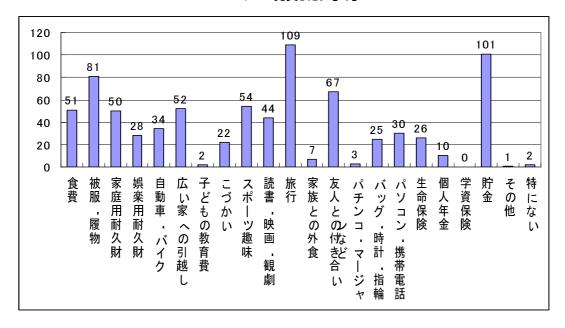
Q12 生活での困り事



Q47「負担に思っている」家計支出

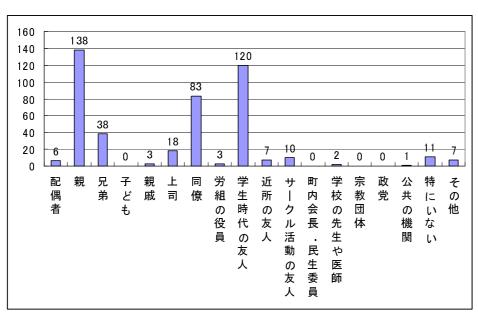


Q48 「充実したいもの」



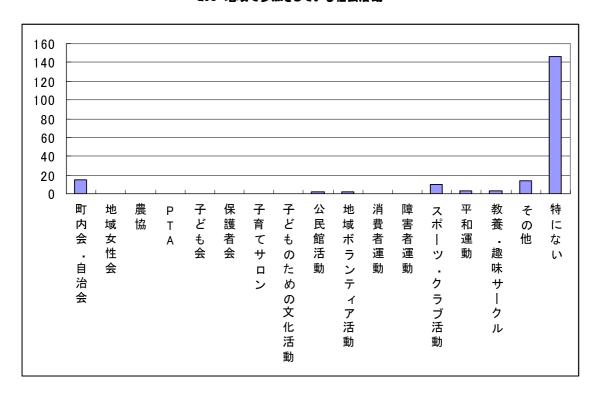
6) つながり

Q13 誰に相談するか



Q52 近所づきあいの程度

	度数	有効パーセント	累積パーセント
ほとんど顔を合わせな	58	28.6	29.6
い	56	20.0	29.0
あいさつ程度	136	67.0	96.6
立ち話はする	5	2.5	99.0
一緒に何かしたりする	1	.5	99.5
家で話し込む	1	.5	100.0
合計	201	100.0	



7) 自由記述

将来が不透明で、消費意欲がわかない。

1日の仕事量が減ればいいなと思います。

職場の人間関係をどうにかしてほしい。

車がないと不便だけど、車買うと余裕がゼロになるから困りものです。

倒産しそう。にもかかわらず、経営陣に危機感はなく、その上、自分たちの意にそわないことは全くしない(意見もきかない)。そんな経営陣を一掃したい。

仕事とプライベートのバランスをよく、生活したい。現在、組織の変化で仕事自体にやりがいを感じられません。

仕事でもっと協力体制がほしい。一体感があれば良いと思います…。

もう少し、住宅手当が出るといいと思う。

仕事が忙しいです。人手が足りません。

定時で帰りたいと思うけど入院があると帰れないからもっとテキパキ仕事をせねばと思います。

賃金が下がったり福利厚生がなくなると生活できないです。

給料を上げて欲しい(3~5万)

もち帰らなくてはできない仕事が多く時間外もみんなつける時ばかりではないため、つけにくい。書類ばかり増え時間も体力も奪われる。もっと少なければ保育内容が充実できる。書類が増え持ち帰るなというわりに園に古いPC1台しかない。

将来子育てや老後のことを考えると給料を上げて欲しいと思う。また、自分自身でも節約して貯金していかなければならないと思う。

結婚を考えているため、結婚資金が欲しいです。

交通費を増やして欲しい。

仕事がきつくて(人が足りない。仕事量(持ち帰り、残業)が多いから、自分自身にゆとりがない

7. 持ち物財調査の結果の概要-20歳代単身世帯について

(1) 最低生活に必要な品目の選定

426 品目の中から、所有率 7 割以上のものについては、最低生活に必要な品目であると判断し、それらについては価格調査を行うこととした。ただし、若干 7 割を下回るものについても、多くの世帯で必需品になっている可能性が高いと思われる品目については、これに加えることとした。例えば、「こたつ」は単独での所有率は 52.2%であったが、他の食卓等を合わせると所有率は 8 割を超えた。よって、食卓類を代表して「こたつ」を所持させた。

(2) 20 代単身世帯 (男性) の所有した品目について

持ち物財調査の結果を踏まえて、2010年4月に合同調査チームは分析会議を開催して、 実際に価格調査を行う品目をリストアップした。品目については、「静岡県最低生計費試算 (男性若年単身世帯モデル)のための価格調査票(平成22年5月)」を参照のこと。

8. 最低生計費試算の結果

表9:最低生計費総括表

	静岡県(静	東北地方	首都圏(さい
	岡市)	(北上市)	たま市)
		25 歳男性	
	賃	貸アパート 25	m²
消費支出	173,549	171,818	174,406
食費	38,695	40,822	39,564
住居費	42,000	30,000	54,167
光熱・水道	6,993	9,017	6,552
家具·家事用品	2,686	3,410	3,881
被服•履物	5,838	5,385	7,548
保健医療	2,420	2,465	2,465
交通·通信	40,082	41,683	18,214
教育	0	0	0
教養娯楽	15,417	18,145	18,273
その他	19,418	20,811	23,742
非消費支出	44,853	42,603	42,395
予備費	17,355	17,000	17,000
最低生計費(税抜き)	190,904 188,818 191,4		191,406
(税込み)月額	235,757	231,421	233,801
(税込み)年額	2,829,084	2,777,052	2,805,612

(注) 非消費支出には、「所得税」 = 4,600 円、「住民税」 = 8,869 円、「社会保険料(厚生年金+協会けんぽ+雇用保険)」 = 31,384 円を含む。

算出の方法は、以下の通り。

1) 所得税

月収を230,000円とすると、国税庁『平成22年4月以降分源泉徴収税額表』より、

4,600円。

2) 住民税

①住民税の所得割額の求め方

(前年の総所得金額-所得控除額)×税率-税額控除額

○税率=10% (県民税=4%、市民税=6%)

※前年度の所得を276万円として、課税所得金額を計算すると、総所得ー給与所得控除 - 基礎控除- 社会保険料控除で求められるので、

 $\{276 \ \overline{D} \ \overline{H} - (276 \ \overline{D} \ \overline{H} \times 30\% + 18 \ \overline{D} \ \overline{H}) - 33 \ \overline{D} \ \overline{H} - 376,608 \ \overline{H}\} = 1,045,392 \ \overline{H}$

※税額控除額は、課税所得金額が200万以下の場合には、①控除の合計額、②課税所得金額のうち、いずれか小さい額の5%相当額になるので、この場合は基礎控除=5万円の5%で求められる。

5万円×5%=2,500円

よって、住民税の所得割額は、

1,045,392 円×10%-2,500 円 = 102,039 円

②住民税の均等割額の求め方

住民税の均等割額は、下表のように定められている。

市民税	3, 000円
県民税	1, 400円

したがって、住民税額(年額)は、102,039円+3,000円+1,400円=106,439円となり、1か月当たりでは **8,869**円となる。

3) 社会保険料

- ①厚生年金保険料率=15.704%(うち労働者分=7.852%)
- →標準報酬月額 230,000 円では、18,844 円が本人負担分
- ②協会けんぽ(静岡県)保険料率=9.3%(うち労働者分=4.65%)
- →標準報酬月額 230,000 円では、11,160 円が本人負担分
- ③雇用保険保険料率(失業給付分)=1.2%(うち労働者分=0.6%)
- →月収を230,000円とすると、1,380円が本人負担分

したがって、社会保険料負担 (1 か月当たり) = 18,844 円+11,160 円+1,380 円=**31,384**円**(**年額では、376,608 円) となる。

おわりに―調査の結果からみえるもの

今回の調査から得られた、静岡県における生計費の特徴とは、①住居費は首都圏と東北の中間の水準、②交通費は自動車を所有させたため東北とほぼ同じ水準、③教養娯楽は首都圏や東北よりやや低い水準、などであった。また、静岡県の最低生計費は、首都圏や東北の最低生計費とほぼ同水準であるという結果も得られた。つまり、現在の地域別最低賃金はまったく根拠がなく、生計費はほぼ全国一律であることが実証されたわけである。

ちなみに、今回の試算結果を時給に換算すると(中央最賃審議会が用いている月 173.8 時間労働)、1,356 円/時間となった。静岡県の最低賃金額は 713 円/時間であり、試算の最低生計費水準の時給とは、大きな隔たりがある。さらに、静岡市(2 級地一1)における生活保護基準の最低生活費は 116,070 円(内訳:生活扶助基準第 1 類費=36,650 円+同第 2 類費=39,520 円+住宅扶助特別基準額 39,900 円)であり、これも今回の試算結果から得られた消費支出 173,549 円とは大きな隔たりがある。

この結果をもとに、生計費原則に立ち返り、最低賃金の水準や生活保護基準を引上げていくことが、急務の課題である。